

第2巻1号 2020年3月

# 秀明大学看護学部紀要

Journal of Faculty of Nursing

その他

アカデミック・スキルの修得を目指した教養ゼミでの授業設計に  
関する交流セッションの開催

柴野 裕子・村中 陽子・飯村 直子・齋藤 泰子・  
石津仁奈子・岡田 葉子・片桐いずみ・茅島 江子

 秀明大学看護学部

Shumei University Faculty of Nursing

---



---

 その他
 

---



---

秀明大学看護学部紀要  
P.53-56 (2020)

## アカデミック・スキルズの修得を目指した教養ゼミでの授業設計に関する交流セッションの開催

Developing Student Academic Skills: Report on a Lesson-planning Workshop

柴野裕子<sup>1)</sup> 村中陽子<sup>1)</sup> 飯村直子<sup>1)</sup> 齋藤泰子<sup>1)</sup> 石津仁奈子<sup>1)</sup>  
 Yuko Shibano Yoko Muranaka Naoko Iimura Yasuko Saito Ninako Ishizu  
 岡田葉子<sup>1)</sup> 片桐いずみ<sup>1)</sup> 茅島江子<sup>1)</sup>  
 Yoko Okada Izumi Katagiri Kimiko Kayashima

**キーワード**：アカデミック・スキルズ、教養ゼミ、授業設計、交流セッション、アクティブラーニング

**Key Words** : academic skills , active learning , general education seminar, instructional design , workshop

### I. はじめに

我が国では、少子化や大学の増加を背景として、大学全入時代が到来したことが報告されている<sup>1)</sup>。これは、若年人口の過半数が高等教育を受ける機会を得られている一方で、大学入学後の目的意識の希薄化、学習意欲の低下等、学生の多様化という課題が挙げられている<sup>1)</sup>。このような課題に対し中央教育審議会は、学士課程教育にふさわしい課題探求能力といった高次の目標達成を重要とする一方で、基礎的な読解力や文章表現力などのアカデミック・スキルズの修得も重要視している<sup>1)</sup>。

そして、アカデミック・スキルズに関する大学生のための書籍が数多く出版されており、「レポート・論文などの文章技法」「プレゼンテーション・ディスカッションなどの技法」「図書館の活用法」「資料検索・資料収集の技法」等が取り扱われている。これら知的技術入門書の活用を含め、アカデミック・スキルズの修得については、初年次教育の取り組みとして授業実践が報告されているが<sup>2) 3)</sup>、アカデミック・スキルズ

の修得を目指した授業設計については議論が必ずしも十分尽くされていない。

また、看護系大学は年々増加しており、2002年から2018年にかけて約3倍に増加していることが報告されている<sup>4)</sup>。看護系大学の学士課程教育における、看護実践能力の向上が注目されているが、アカデミック・スキルズの修得は学士課程教育において基礎的な能力であり、看護実践能力向上の基盤となると考える。

そこで今回、日本看護学教育学会 第29回学術集会において、「教養ゼミにおけるアクティブラーニング：いかにしてアカデミック・スキルズと看護学は融合させられるのか」というタイトルで交流セッションを開催した。以下では、その主な内容について紹介する。

### II. 開催までの経緯

交流セッションのメンバーは、本校の必修科目である教養ゼミ「総合教養演習Ⅲ」の担当教員を中心に8名のメンバーで構成されている。この科目は、アクティブラーニングの授業設計を行っているが<sup>5)</sup>、教養演習という科目の特性から、学士課程教育において必須となるアカデミック・スキルズの修得が行えるような授業設計が重要である。

1) 秀明大学看護学部

1) Faculty of Nursing, Shumei University

そのため、各総合教養演習におけるアカデミック・スキルズ修得プログラムの実施状況について、「大学での学びの作法・技法（アカデミック・スキルズ）の修得」<sup>6)</sup>を参考に検討を行った（表1）。その結果、4つのアカデミック・スキルズについて各総合教養演習での実施状況が確認できた。このことは、講義のテーマを踏まえつつ、アカデミック・スキルズの修得を目指す授業設計について、改めて検討する契機となった。

日本看護学教育学会 学術集会で開催されている交流セッションとは、企画者が学術集会上において自主運営で行うセッションである。企画者はセッションを行うテーマを決め、学術集会在指定する日時・場所においてセッションの企画・運営を行っている。筆者らは、看護学を学びながらアカデミック・スキルズの修得を目指す授業設計について、交流セッション参加者と意見交換を行いたいと考え、この度交流セッションを企画・運営する運びとなった。

表1. 総合教養演習におけるアカデミック・スキル修得プログラム実施状況

科目名 開講年次	総合教養演習I 一年生前期	総合教養演習II 一年生後期	総合教養演習III 二年生前期	総合教養演習IV 二年生後期	総合教養演習V 三年生前期
各演習のテーマ (授業シラバスより抜粋)	自己と他者を理解するための方法を学ぶ	看護の対象となる人々を理解する	看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することの重要性を理解する	各看護分野における看護の特徴と、地域で様々な活動を行っている看護職について理解を深める	チーム医療及び多職種連携について理解を深める
レポート・論文の書き方などの文章作法を身につけるためのプログラム	●	○	○	○	○
プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法を身につけるためのプログラム	○	●	○	○	○
論理的思考や問題発見・解決能力の向上のためのプログラム	○	○	●	●	●
大学内の教育資源(図書館を含む)の活用方法を身につけるためのプログラム	●	●	○	○	○

◎:主に演習で学ぶアカデミック・スキルズ ○:演習で学ぶアカデミック・スキルズ

### Ⅲ. 交流セッションの概要

本交流セッション「教養ゼミにおけるアクティブラーニング：いかにアカデミック・スキルズと看護学は融合させられるのか」は、2019年8月4日、日本看護学教育学会 第29回学術集会（京都国際会館 Groom）にて開催された。

#### 1) 参加者概要

参加者は全員で25名であり、その内訳は、本学教員7名、他大学教員9名、看護専門学校教員7名、臨床看護師1名、大学院生1名であった。

#### 2) 内容（表2）

交流セッションの前半部分では、本学における教養ゼミ「総合教養演習Ⅰ～Ⅴ」での取り組みについて報告を行った。まず茅島江子学部長より、本学のカリキュラムにおける総合教養演習Ⅰ～Ⅴの位置づけや各演習の主要なテーマについて報告された（写真1）。また、本学の教養ゼミ「総合教養演習」は、初年次からの教育ではなく、1年生前期から3年生前期まで教養ゼミが開講されており、カリキュラムの大きな柱であるということや、看護学部全教員が教養ゼミ「総合教養演習」に関わっていることが特徴であるということについても説明された。

表2. 交流セッションスケジュール

時間	内容
10:30～10:35	本校における総合教養演習の位置づけ及び科目内容について概要を説明（茅島学部長より）
10:35～10:50	総合教養演習Ⅲについての具体的な取り組みの詳細（柴野より）
10:50～11:30	各グループでグループディスカッション
11:30～11:50	各グループのディスカッション内容について発表



写真1 交流セッションの様子

次に、筆者より教養ゼミ「総合教養演習」の具体的な取り組み事例として、総合教養演習Ⅲにおける授業展開について紹介した(写真2)。総合教養演習Ⅲは、「看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することの重要性を理解する」を主要なテーマとしており、ハンセン病患者の尊厳と権利の擁護について学修を深めた上で、各グループが興味のある倫理的課題について自由学修を行った(写真3)。学生は、各グループが選択した倫理的課題に関する文献を調べ、グループ内でディスカッションを行った。この演習では、教員1名が1グループを担当し、グループディスカッションにおいては学生の論理的思考や問題発見・解決能力が向上するように意識しながらファシリテーションを行



写真2 交流セッションの様子

2019年度 総合教養演習Ⅲの授業展開について

	内容	修得を目標とするアカデミック・スキルズ
第1回～第6回	ハンセン病患者の尊厳と権利の擁護について学修する	・レポート、論文の書き方などの文章作法 ・プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法
第7回～第14回	今日、人々の尊厳と権利が脅かされている倫理的問題を広く調べ、グループで関心のあるテーマについて学修する	・論理的思考や問題発見、解決能力 ・大学内の教育資源(図書館を含む)の活用方法

写真3 交流セッションの資料より抜粋

い、成果物作成の際にも指導を担当した。学修成果の発表方法としてポスターセッションを取り入れ、ポスター発表に続いて、学生個々にポジティブ意見は青色の付箋紙に、ネガティブ意見や質問はピンク色の付箋紙に記載してポスターの該当箇所に添付するよう促した。そのために時間を20分間確保し、その学習行動が学習課題への関心を高め、質疑応答を促進したことを報告した。さらに、総合教養演習Ⅲの学修成果を成果物集録としてまとめ、看護学部全教員に配布することで、当該学生のアカデミック・スキルズを把握することができ、切れ目のない教育を目指していることについても報告した(写真4)。

交流セッションの後半部分では、「アカデミック・スキルズを修得しながら、看護学の学びを深めていくにはどのような授業設計のアイデアがあるか」というテーマで、アカデミック・スキルズの修得と看護学の融合を目指した、アクティブラーニングによる授業設計の可能性について、参加者の方々と活発に意見が交わされた。

総合教養演習Ⅲ 成果物集録の作成①

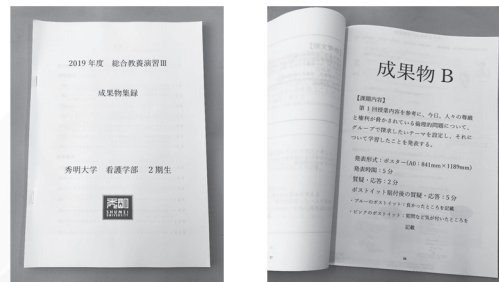


写真4 交流セッションの資料より抜粋



#### Ⅳ. グループディスカッションの内容

1) 各教育機関でのアカデミック・スキルズに関する科目について

大学では1年次で該当科目が開講されていることが報告された。科目を担当する教員は、看護師免許を有する教員（以下、看護教員）であると報告する者が多く占めたが、一般教養科目を担当する教員が教養ゼミを担当している大学もあった。また、科目を担当する看護教員は、基礎看護学領域など特定の看護学領域に割り振られて担当する大学や、1年次担任が担当する大学など様々であった。

専門学校では、単位数の関係でアカデミック・スキルの修得を目指す授業の展開が難しいとの報告や、「プロジェクト学習（論理的思考のディベート・ナイチンゲールプロジェクトは身近な人の健康を考えさせている）」を行っているとの報告があった。

参加者からは、担当する教員の確保が大きな課題であるとの意見が出された。看護学部教員は実習を抱えており、実習と教養ゼミの両立が課題となっている。また、各教員の専門科目に教養ゼミを担当するという負荷がかかるため、教員のモチベーションをどのように維持するののかも課題となっているとの意見も挙がった。

2) アカデミック・スキルの修得と看護学の学びを融合させた授業設計について

アカデミック・スキルの修得については、特に1年生のレディネスに大きな差があり、各学生のアカデミック・スキルズの向上をグループワークという集団学修の場面で目指す困難について意見が交わされた。また、ファシリテータの教員がきめ細かに学生1人1人を支援していくことが重要であること、グループワークを通じた成果物より、各学生のアカデミック・スキルの修得状況を評価する工夫が必要であるとの意見が交わされた。

総合教養演習Ⅲの取り組みについて、授業設計の際にグループ発表を導入することで学生は学びを深めることができるとの意見があった。一方、ハンセン病以外のテーマとして、身体抑制や虐待のような学生に知識があり、身近な問題が良いのではないかとの意見も出された。しかし、メディアで報道されている虐待やいじめの当事者であった学生が存在したケースについて報告され、身近な問題の取り上げ方には配慮を要することも示された。

#### Ⅴ. 今後の取り組み

本交流セッションはアカデミック・スキルの修得をテーマとしていたが、看護専門学校教員など、大学教員以外の参加者が多く、アカデミック・スキルズは大学以外の看護師養成所の教員においても関心が高いことがうかがえた。しかし、今回は具体的な授業設計にまで議論が及ばず、授業を開講する上での課題について意見が多く交わされた。これは、本学のような教養ゼミへの関心は高くても、実際に開講する上で様々な困難があり、参加者の積極的に取り入れたいとの思いから、様々な課題が明らかになったためと考えられる。今後は、本学の実践を重ねつつ、アカデミック・スキルの修得と看護学の学びを融合させた教養ゼミの授業設計について活発に意見交換し、学生のアカデミック・スキルズが向上するように取り組んでいきたい。

#### 引用文献

- 1) 文部科学省 (2019.09.04) : 学士課程教育の構築に向けて (答申)  
< [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/fieldfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/fieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf) >.
- 2) 小口多美子, 加藤光寶 : 基礎ゼミナールにおける学生の理解と今後の課題, 獨協医科大学看護学部紀要, 1, 68-76, 2007.
- 3) 河本愛子, 石黒千晶, 浜名真以, 石井悠, 西田季里, 吉永真理 : 本学における薬学部初年次教育としてのアカデミックスキルズ講義へのルーブリック評価導入とその効果検証, 昭和薬科大学紀要, 52, 11-23, 2018.
- 4) 文部科学省 (2019.09.04) : 2019年度 看護系大学に係る基礎データ  
< [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/098/gijiroku/\\_icsFiles/fieldfile/2019/05/27/1417062\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/098/gijiroku/_icsFiles/fieldfile/2019/05/27/1417062_4_1.pdf) >.
- 5) 村中陽子, 飯村直子, 齋藤泰子, 中嶋尚子, 石津仁奈子, 岡田葉子, 片桐いずみ, 柴野裕子, 茅島江子 : 看護学の基礎分野「総合教養演習Ⅲ (倫理観)」におけるアクティブラーニングの授業設計, 秀明大学看護学部紀要, 1 (1), 73-80, 2019.
- 6) 河合塾 : 大学での学びの作法・技法 (アカデミック・スキル) の修得, Guideline 2017年7・8月号, 45, 2017.